

## 【付属資料 1 2】 予備水槽詳細

以下に記載する水槽数及び水量は参考値とし、生物の飼育、繁殖等に支障がない範囲であれば制限しないものとする。

		予備水槽名	対象生物	水槽数		水量 (t)	備考
屋 内	大水槽	マグロ予備水槽	大型魚類	500~600t×1基	1	500~600	分割可能、大水槽と隣接・接続可能
		サンゴ予備水槽	イシサンゴ類	5~8t×10基	10	50~80	5t×2基を5系統(脱窒装置) サンゴ水槽と隣接
	魚類	海水魚飼育水槽	海水魚	60系統	約150	500	屋外へ直接アクセス、検疫スペースとエリアを分ける
				薬浴・検疫室(エリアで分ける)	10		屋外へ直接アクセス 薬浴水槽10台程度設置
				移動水族館(エリアで分ける)	20		屋外へ直接アクセス
		餌料生物飼育・繁殖	珪藻、ワムシ、アルテミア、アミエビ	100~500ℓ円形水槽大小15	15	5	
		浮遊生物	クラゲ、浮遊生物、ウミホタル	100~500ℓ水槽25個	25	5	
		圧力水槽	深海魚	200ℓ~1t大小7個程度ℓ		3	可動型
		淡水	淡水魚	2系統	6	2	海水魚と分離
	両生類		6系統	53	3	海水魚と分離	
	両生類検疫室		2系統	6	0.6	両生類飼育室と分離	
	鳥類	ペンギン	予備室	5部屋(分割・接続可能)2t×5	5	10	展示に隣接
			夏季冷房室	100t	1	150	屋外展示場に隣接させる、オウサマペンギン・イワトビペンギンの夏季収容冷房室、冬季の展示も兼ねる
		海鳥	予備室	2部屋(分割・接続可能)2t×2	2	4	展示に隣接
		検疫室	検疫・治療など	2部屋2t×2	2	4	別棟が望ましい
		隔離室	緊急保護鳥、罹患鳥など	1部屋2t×1	1	2	別棟が望ましい

		予備水槽名	対象生物	水槽数		水量 (t)	備考
ドライエリア			餌料生物繁殖室	プラケース 50 個程度	50	—	両生類と隣接、コオロギなど
			小笠原陸産貝類	インキュベーター設置	—	—	インキュベーター設置
屋 外	魚類 (淡水魚)	保全 1	ミナミメダカ	6t×10	10	60	調温無、濾過機能無、淡水
		保全 2	ゼニタナゴ	6t×6 基	6	36	調温無、濾過機能無、淡水
		保全 3	水草類	6t×6 基	6	36	調温無、濾過機能無、淡水